

北海道国際理解教育 研究協議会 会報

第 13 号
代 表 磯 貝 登
事務局 長 大 泉 弘
事 務 局 坂 垣 修
1990
発 行 3・15

平成元年度の終りに当たって

会長 磯 貝 登

昨年四月に、会長に就任以来、早くも一年が過ぎようとしています。この間役員・理事をはじめ、会員の皆様のご協力により年度当初に計画した事業を、ほぼ実施することができました。各位の力強いご支援に心からお礼を申し上げます。特に、今年度は、道都札幌市において記念すべき第十回全道国際理解教育研究大会を開催いたしました。会場をお引き受けいただいた札幌市の皆様には、大変なご尽力をいただき感謝いたしております。札幌市での開催が急に決定した関係で、準備の期間も六か月ぐらいしかなく、さぞかしご苦勞も多かったと思います。このような悪条件にもかかわらず、福島実行委員長を中心にした皆様方の非常にスピーディなしかもち密な企画や実践には心から敬意を表します。また、会場校や協力校の研究実践・授業につきましても、これからの国際理解教育を推進する上で、大きな指針となりました。

他の事業であります会員名簿の修正と追補、道立教育研究所に設置しました北海道国際理解教育コーナーの充実も、各部、事務局の意欲的な取り組みと会員の協力により成果を上げてきています。また、帰国報告会・新派遣教員激励会も北海道教育委員会のご指導、ご援助をいただきながら三月九日に終了いたしました。

次年度の課題として残されたことは、健全財政の確立と「本会のあゆみ」の発刊であります。財政の確立につきましては、会員の皆様のご理解とご協力なしには解決できないことでもあります。どうかよろしくお願いします。

また、年度当初の理事会におきましても懸案事項となっておりました平成二年度全道国際理解教育大会の開催地は網走市に決定をみました。目下、開催要項の作成など諸準備を進められており、近日中には、一次案内が配布される予

定になっております。網走市で開催をお引き受けいただくまでには数多くの話し合いが持たれ、いろいろとご苦勞があったことと存じます。ご決断くださいました関係の皆様のご勇氣と国際理解教育に対する情熱に頭の下がる思いです。ありがとうございました。

次年度の課題につきましては、理事会・總會の結果を御覧いただき全会員が解決のために努力していただきたいと存じます、健康に留意して頑張りましょう。

理事会・總會の報告

1990年3月9日(金)

10時～札幌市 アカシャ

1. 経過報告

1989年	3月25日	事務局会議(札幌)
	5 15	北海道教育委員会へ挨拶・事務局会議
	6 10	会報10号発行・渡島大会紀要送付
	6 12	北海道教育委員会へ助成願
	7 17	鋼路海外事情研究会
	8 4	全国海外子女教育研究大会
	5	会長・事務局長・札幌支部より参加
	9 2	第10回全道大会について事務局と札幌支部との合同会議
	9 8	石狩支部總會
	9 12	全道大会について北海道教育委員会と折衝
	9 20	渡島国際理解教育研究大会二次案内
	10 10	会報11号発行
	10 30	第10回十勝管内国際理解教育研究大会 帯広市広陽小学校
	11 7	第6回渡島管内国際理解教育研究大会 上磯町石別中学校

	11	10	第10回北海道国際理解教育研究大会・第4回札幌国際理解教育研究大会
		11	八軒西小学校・稲積中学校・教育文化会館
	12	13	第7回釧路管内国際理解教育研究大会・阿寒小
1990年	2	12	第2回網走大会
	2	19	北海道教育委員会と折衝
	2	20	会報第12号発行・平成2年度派遣激励会案内
	3	3	上川支部派遣者激励会
	3	9	北海道教育委員会・北海道国際理解教育研究協議会共催「1989年3月帰国在外教育施設派遣教員報告会」「1990年度在外教育施設派遣教員事前研修会」
			『理事会・總會』
			『在外教育施設派遣教員激励会』
	3	10	網走支部激励会
	3	15	会報13号発行

2. 1989年度会計決算報告及び1990年度予算

監査報告と次年度予算案の承認（別紙参照）

3. 1990年度事業計画

①「北海道国際理解教育資料コーナー」の整備の継続

目的：国際理解教育の研究及び普及と資料の保存

場所：北海道立教育研究所 資料室

方法：資料室へ送付

069 江別市文京台42

北海道立教育研究所 資料室

☎011-386-4511

内容：学校要覧・研究紀要・研究収録・授業記録・大会記録・赴任国資料

②「第11回北海道国際理解教育研究大会」について

開催地：網走市

期日：1990年11月2日（金）

場所：網走小学校・網走第一中学校・網走南ヶ丘高等学校

大会主題：『国際交流を通して国際感覚をどう養うか』

備考：6月ごろ第一次案内配布予定

③10周年記念誌の発行

目的：昨年度発行に漕ぎつけなかった反省に基づき本会の歩みの記録化
会の結成12年、全道大会10回目を記念

内容：第一部「北海道国際理解教育研究協議会の歩み」
第二部「派遣校の思い出」

担当：事務局・研修部。特別委員会

発行：1990年11月

④会員名簿の修正と追補

各会員は異動があった場合、速やかに事務局までお知らせください。
転勤の際、挨拶状を出されると思いますがその際、異動の葉書を事務局へ
もご送付ください。あわせて各支部への問い合わせがありましたなら、ご協
力をお願いします。

⑤会報の発行

発行回数：年4回の会報発行

6月（14号）新役員のお知らせ

10月（15号）全道大会の概要

12月（16号）全道大会の報告

2月（17号）支部報告、海外からの通信

⑥帰国報告会及び事前研修会の共催

⑦新規会員加入申し込み時期について

加入手続きを派遣時に行う。3か年の年会費は徴収せず、入会金7000円を徴収する。

会員になった場合、3か年会報の送付。

4. 1990年度の役員について

会長： 磯貝 登（空知 校長 58年）

事務局長：大 泉 弘（胆振 校長 53年）

*副会長・監事等々については現在折衝中、会長の委嘱による各専門部の役員については決定次第お知らせします。

1989年3月帰国在外教育施設派遣教員報告会 & 1990年度在外教育施設派遣教員事前研修会

昨年3月帰国された17名の派遣教員の帰国報告会と今年4月世界各地に派遣される20名の事前研修会が行われました。二つの会議は平行して開催され15時45分からは両者の全体会議が持たれました。全体会議のあと4つの地域「アフリカ・中近東地区」「ヨーロッパ・アメリカ地区」「中南米地区」「アジア地区」に分れ、熱心に協議がすすめられました。特にこれから派遣される教員としては一番新しい情報が得られ、とても有意義な時間だったと思います。メンバーが新旧10人程度の少人数のため、かなり細かいところまで話し合いがなされました。グループ別会議には会から助言者と司会、そして北海道教育委員会からもご参加いただき適切なお助言をいただきました。初めての試みでしたが、協議を中心にした充実した会になりました。関係の皆様は厚く御礼申し上げます。

*事務連絡

1. 会費の納入……1989年度までの会費納入よろしくお願ひします。
会報12号で呼かけましたところ多くの会員から納入がありました。
2. 異動の際、ご連絡を……会報等のお届けができません。挨拶状を事務局へもご投函ください。

平成元年度 会計決算書

(自平成元年4月1日～至平成2年年3月31日)

I 収入の部

項目	予算額	決算額	増減	摘要
繰越金	495,169	495,169	0	
会費	438,000	201,000	237,000	
入会金	119,000	63,000	56,000	元年3月帰国者入会2名
雑収入	0	0	0	口座の利息なし
合計	1,052,169	759,169	293,000	

II 支出の部

項目	予算額	決算額	増減	摘要
事務費	30,000	32,917	△ 2,917	封筒、職員録
会報費	50,000	69,717	△ 19,717	会報、研究集録送付
事業費	260,000	50,000	210,000	研究集録増刷
会議費	150,000	127,450	22,550	理事会総会旅費
通信費	100,000	24,685	75,315	郵券、ハガキ
助成費	200,000	200,000	0	札幌大会助成
印刷費	50,000	47,740	2,260	事務局打合せ
雑費	20,000	12,500	7,500	北海道通信広告
予備費	192,169	35,632	156,537	ワープロ購入、香典
合計	1,052,169	600,641	451,528	

III 差引残高

(収入決算額) - (支出決算額) = (差引残高)

759,169 - 600,641 = 158,528

平成2年度 会計予算案

(自平成2年4月1日～至平成3年3月31日)

I 収入の部

項目	元年度決算額	2年度予算額	増 減	備 考
繰越金	495,169	158,528	336,641	
会 費	201,000	450,000	249,000	150名の会員で算出
入会金	63,000	210,000	147,000	30名の入会を想定
雑収入	0	0	0	
合 計	759,169	818,528	59,359	

II 支出の部

項目	元年度決算額	2年度予算額	備 考
事務費	32,917	30,000	封筒残部
会報費	69,717	70,000	通信費の一部を会報費に組み込む
事業費	50,000	200,000	将来の事業に対応、ブロック交流会
会議費	127,450	150,000	理事会総会
通信費	24,685	50,000	事務局からの各種通信
助成費	200,000	200,000	北海道大会(網走)
印刷費	47,740	50,000	打合せ
雑 費	12,500	20,000	広告
予備費	35,632	48,528	
合 計	600,641	818,528	

<平成元年度決算及び2年度予算案について>

- 1 決算は、2月末日までとし3月以降の会計執行は暫定とし、平成2年度予算が確定後繰り込みます。
- 2 事業費の各ブロック交流会、北海道立教育研究所資料コーナーへの支出は今後の課題とします。
- 3 会費の納入及び入会の促進が図られず、会の運営面からの工夫が必要です。
- 4 帰国者の早期入会を強力にはたらきかける必要があります。
- 5 新年度の業務推進にあたり運転資金の不足が予想されます。年度初めの会費の納入が健全運営のために必要です。
- 6 平成2年度の予算案は、昭和63年度帰国者及び元年度帰国者の入会、また150名の会員の会費納入を基礎に算出しました。

ヴィトリア日本人学校（ブラジル）

1989～1992 村瀬 正貢先生〈鋼路市立日進小〉

2月も半ばになり、やや涼しくなりました。しかし、着任した4月はとても暑かったので、これは一時的なものと考えます。これからも暑い日が続くものと考えます。生活をする上で何の不安もないと書いてきましたが、1月半ばからアルコールが不足し、スタンドには長蛇の列ができています。私もこれまでにこの列に2回加わりました。アルコールが全国的に不足していることは事実です。アメリカへの砂糖輸出のために、サトウキビを砂糖生産に回したからだと言われていました。アルコールはサトウキビから生産しますから、一時的にアルコール不足となったのです。しかし、長蛇の列になっているのは、日光浴として有名なブライアのある都市に限られています。つまり、海のない地域から人が集まり、当然のように車も増え、消費量がいつもの何倍にもなってアルコール輸送が間に合わなくなったためです。アルコール車を国で推奨しておきながら、という憤りを感じますが、ほえてみたところでどうにもならず、長蛇の列に加わりました。

さて、2月10日の真夜中をもって夏時間から正常に戻りました。夏時間に切替わったのは10月15日でしたが、2月10日は1日がとても長く、とりわけ夜が長く感じました。しかし、夏時間に切替わった時よりは違和感がありませんでした。睡眠時間が1時間多くなるだけですから、短くなるよりは当然楽であるということです。この時期に切替わったのは、日が短くなったということです。一時は午後7時半ぐらいまで薄暮でしたが、現在は午後6時半ぐらいになりました。この夏時間に合わせるかのように、現地校の新学期が始まりましたし、休暇をとっていた人の仕事が始まるようになりました。それを証明するかのようにブライアの人出も減ってきました。しかし、実際にはカーナバルが終わらない限りブラジルの政治経済とも落ち着かないと言われていいますから、本格的に始動するのは3月になってからでしょう。

そのカーナバルですが、2月24日から27日まで行われます。2月に入ってから、夜遅くまでサンバのリズムが聞こえるようになりました。いくつかのサンバ学校があって練習するためです。私もジックトクアラと呼ばれる学校に入って出場します。練習は一度しか行っていませんが、バッテリー(音楽隊～打楽器中心)の迫力には驚いてしまいました。近くに行くと耳がどうにかなりそうな感じでした。同時に、その音の中に怒りを感じました。それは、今でこそカーナバルはブラジルを象徴する祭りですが、歴史的には、奴隷の人々の悲しみと怒りによって築き上げられてきた経緯があるからです。今もなおカーナバルに参加している人々の多くは、階級的には恵まれない人々なのです。黒人や混血の人々が、1年間の不満や生活に対する不安を一気に吐き出す祭りともいわれています。この期間、上流階級の人々は、ホテルやクラブに集まって独自にカーナバルを楽しんだり、カーナバル期間には保養地へ出掛けるというのが実態です。

1990年2月到着の便りより一部抜粋